

の早い時期に…と考えていた「役員訪中団」の派遣は、ビザ取得手続き等の遅れで、ようやく9月に実施できたという状況でした。それでも、5年ぶりの訪中ではありましたが、中国宋慶齡基金会との「教育交流プロジェクト」について、前向きな強い共同意識を確認することができ、また、今回のプロジェクトの推進地区である河北省保定市阜平県の体育教育局、職業教育訓練校、県立小学校の関係者と今後の教育交流について意見交換ができ、意思確認が計れたことは大きな成果でした。結果として、教育交流派遣事業については「役員訪中団」の派遣を、受け入れ事業については「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受入についての確認を、教育交流の具体的内容としては「第5回音楽教育交流会」の開催等についての確認を、関係者行うことができました。また、教育交流支援事業については、宋慶齡基金会との協議を通して、4年次となる「音楽教育支援」を行いました。教育交流研究等助成事業については、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪をも広げてきたホームステイ事業を、「第8回教育交流ホームステイin山梨」という形で実施しました。さらに、今年度は、長年の懸案であった、「田中一郎記念奨学基金」による、主に東南アジアからの留学生を対象とした、日本語作文コンクールを、「第1回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール」として実施しました。「第7回日中教育文化交流シンポジウム」の開催については、二部構成として、一部は、第6回シンポジウムの「日中教育交流の意義について、協会の今までの取り組みの検証も踏まえて考えよう」をさらに発展させる形で、「役員訪中団」の報告を踏まえ、教育交流の成果と課題を検証しました。また、第二部は、「第20回日本語作文コンクール」ともコラボした形で、6人の入賞者にシンポジストとして参加してもらい、日中の教育文化交流について考えました。協会が後援している「第20回日本語作文コンクール」については、例年のように作品の審査と「教育賞」受賞者の選定を行いました。また、リモートによる「第7回日中ユースフォーラム」にもコメント・討論者として参加しました。

1. 教育交流・派遣事業

今年度は、5年ぶりに訪中することができました。役員訪中団という形で、中国宋慶齡基金会と河北省保定市阜平県を訪れ、基金会においては基金部と、阜平県においては県当局、体育教育局及び教育関係者と話し合いを持つことができました。阜平県職業技術教育センター、阜平県白河小学校の見学を行った上で、協会からの教育支援がいかに有効に活用されているかについて、阜平県の関係者との話し合いを通して確認することができました。さらに、中国宋慶齡青少年科学文化交流センターの見学及びその後の話し合いにおいては、今後の「教育交流プロジェクト」をどのように具体的に進めて行くかの確認を行うことができました。

2. 教育交流・受入事業

「教育交流プロジェクト」の実施計画の中で、今まで易県や東平県で行い、実績を上げてきた音楽教育を中心とする教育交流を柱として、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れについて検討していくことになりました。

3. 教育交流・支援事業

新たな「教育交流プロジェクト」の初年度として、河北省保定市阜平県への音楽教育支援を行いました。支援の規模としては、過去の取り組みと同じように、100万円／年で行っていくこととしました。阜平県職業技術教育センター訪問の折には、協会からの支援で購入された楽器を使って、演奏も行っていたり、また、楽器収納庫には、協会からの寄贈である旨がきちんと掲示されていました。また、阜平県教育体育局からの報告書に、阜平県の音楽教育の発展充実のために、協会からの支援が大いに役立っていることが記載されていました。

4. 教育交流・研究等助成事業

①教育交流ホームステイ

外国人留学生は、年々増加しています。特に多いのは、中国からの留学生です。彼らは日本での生活の間に、より多くのことを経験し、また学ぼうと意欲に燃えています。そうした留学生に関わって、日中の教育交流及び文化交流そして強い相互信頼による結びつきを目指す協会の願いとしては、「日本を理解し、日本

と母国との友好を担ってくれる人材により多く育て欲しい」と、言うことがあると思います。日本に留学している学生のほとんどは、日本語学校に通学していますが、特に入学初年度は語学力も十分でない上に、なれない異文化の中で、学業・日常の生活面で困難に直面している学生も多いと言われています。協会では、こうした留学生の語学力の向上をめざし、日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業としてホームステイ事業を実施しています。コロナ禍の影響により、2019年度の「第8回教育交流ホームステイin神奈川」の実施から、今年度の再開までに5年も経過してしまいました。この取り組みは、協会の事業として大いに意義があるという評価をいただいていたので、今年度「第9回教育交流ホームステイin山梨」として実施できたことは、大きな喜びです。

②日中教育文化交流シンポジウム

今年度は、二部構成にして、「第5回・第6回日中教育文化交流シンポジウム」の研修会的な要素を持った形式を第一部に、以前に行っていた作文コンクール等で日本との交流に意識を持っている学生とのシンポジウムを第二部として行いました。第一部は、昨年9月に実施した役員訪中団の成果の報告と今後の取り組みへの課題提起を代表理事のレポートを通してながら、討論形式で行いました。第二部は、第20回日本語作文コンクールで、最優秀賞・教育賞・一等賞を受賞し6名の中国人大学生の意見発表をもとに、日中の教育文化の交流をシンポジウムの形で行いました。このシンポジウムを通して「日中教育文化交流の意義」について、より深く検証し、今後の日中教育文化交流の展望や課題に焦点を当てるという成果を上げることができました。

③田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール

今年度はついに、2024年度第1回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクールを実施しました。奨学基金の事業として、ここ数年来の懸案でした。中国人留学生以外を対象とする事業を展開し、具体的に日本語教育・日本との文化交流、そして就学の援助へとつながり発展する形での取り組みとして、日本語作文コンクールは大いに意義ある取り組みとなりました。沢山の作品の中から、10点を入選作品として選んでいただきました。そして、その入選作品の中から5点を、優秀賞として、公益事業検討委員の5名に、内容40点、文法30点、表現30点の合計100点満点で、採点していただき、その合計点で選出しました。どの入選作品を見ても、内容が素晴らしく、良い取り組みになりました。入選者には、以下の奨学金を表彰状と一緒に渡しました。

★優秀賞（3万円）5名 ★入 選（1万円）5名

④中国人の日本語作文コンクール

2024年度第20回日本語作文コンクール（日本橋報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国のほぼ全土にわたる省市自治区の大学、大学院、専門学校、高校、中学校等182校から2,686本もの多くの作品が寄せられました。2004年度にスタートしてから今年度で20回を重ねました。この間中国全土の400以上の学校から、累計60,911本の作品が寄せられました。中国で最も影響力のある日本語作文コンクールへと成長し、中国での日本語学習促進・日本文化普及に大きく貢献してきたと思います。第20回のテーマのコンセプトは、「AI時代の日中交流」とし、それに沿ってテーマを①AI時代の日中交流—プラットフォームの構築を考える、②先輩に学び、日本語学習を頑張る、③私を変えた日本語教師—先生への感謝状、の四つになりました。テーマごとの応募数は、①には1,399本、②には478本、③には809本となりました。1次から4次までの審査を行う中で、最終的に、最優秀賞（日本大使賞）1名、1等賞5名、2等賞15名、3等賞40名、佳作賞258名となりました。

★教育賞・日中国際教育交流協会賞（5万円相当）欧芊序（大連外国語大学二年生）
林 婧（天津外国語大学二年生）

5. その他の活動

- ① 今年度は通常の理事会を4回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。
- ② 広報関係では、2025年3月に『会報31号』を発行しました。「共生力」は、残念ながら発行しませんでした。
- ③ 財政確立に向けての賛助会員の取り組みは引き続き行い多くの協力を得ました。

(3) 2025 (令和7) 年度事業計画 (案)

新型コロナウイルス禍の影響から、徐々に回復してきている中で、今年度は、教育交流派遣事業・支援事業・受入事業・研究等助成事業について、当初の計画をすこしずつ実行に移せるようになってきました。訪中のためのビザの取得等、厳しい状況もありましたが、中国宋慶齡基金会との「日中教育交流プロジェクト」の推進のために、役員訪中団の派遣を行いました。それによって、阜平県のエデュケーション・ビューイングを行い、県政府・県党委員会・県教育体育局との話し合いも持て、今後の教育交流派遣・受入れ・支援事業の具体的な打ち合わせを行うことができました。今後も、さらに強力に「草の根教育交流」をより深く多様に発展させることを目指して、取り組みを進めていきたいと考えています。また、過去9回にわたって積み上げてきた中国人留学生と日本の教職員家庭との友好を深める「日中教育交流ホームステイ」事業や、日中の友好・相互理解の輪をも広げて7回の成果を積み上げてきた「日中教育文化交流シンポジウム」、さらに懸案だった「田中一郎記念奨学基金」の事業として行った、「第一回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール」を、今後もしっかりと取り組んでいきたいと考えています。今年度の事業の成果や課題、意義をきちんと踏まえる中で、これらの取り組みをさらに発展させていきたいと思っています。

協会の持続可能な活動を発展させるため、2025 (令和7) 年度は下記の教育交流事業を推進します。

1. 教育交流・派遣事業

- ① 「新たな教育交流プロジェクト (河北省保定市阜平県との教育交流)」の実施内容を、中国側の重要なパートナーである中国宋慶齡基金会との協議の中で行います。
- ② 「新たな教育交流プロジェクト (河北省保定市阜平県との教育交流)」の実施内容を決定し速やかな実施を図るために、「視察研修訪中団」の派遣を行います。

2. 教育交流・受入事業

- ① 第6次宋慶齡基金会教育交流代表団の受け入れについて検討していきます。
- ② 中国教育国際交流協会、中国宋慶齡基金会、教育工会及びその他の教育諸団体が派遣する団体との教育交流、及び学校参観などの受入れ手配等を行います。

3. 教育交流・支援事業

- ① 5年次となる教育交流支援を、「新たな教育交流プロジェクト (河北省保定市阜平県との教育交流)」のもとに行います。

4. 教育交流・研究等助成事業

- ① 第10回教育交流ホームステイを実施します。
- ② 第2回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクールを実施します。
- ③ 第8回日中教育文化交流シンポジウムを開催します。
- ④ 第21回中国人の日本語作文コンクール (日本僑報社・日中交流研究所主催) の後援を継続します。

5. 機関運営などに関して

- ① 理事会、評議員会を年2回、監査委員会を年1回、各委員会、事務局会を随時行います。
- ② 年会報32号を発行します。また、『共生力』を随時発行します。ホームページの充実を図ります。
- ③ 事業推進に関する理解を図りながら会員を拡大し、よって財政基盤の確立を図るために、引き続き組織的な取り組みを進めます。
- ④ 財団の将来へ向けての在り方を検討するために、専門委員会を設置します。

(4) 2025 (令和7) 年度収支予算書 (令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

(単位: 円)

科 目	A 7年度予算案額	B 6年度予算案額	C 6年実績見込み	D 増減 A-B	備 考
I 事業活動収支の部					
1. 事業活動収入					
① 基本財産運用収入	600	600	601	0	
基本財産運用収入	600	600	601	0	
② 特定資産運用収入	461	622	461	-161	
(公1) 訪中派遣費用準備資金	186	171	186	15	
(公2) 訪日受入事業準備資金	60	227	60	-167	
(公3) 教育交流支援費用準備資金	80	85	80	-5	
(公4) 田中一郎記念奨学基金	135	139	135	-4	
(共通) 教育交流積立金	0	0	0	0	
③ 会費収入	5,170,000	4,467,000	5,170,000	703,000	
1. 団体会費収入	4,990,000	4,270,000	4,990,000	720,000	R6年度より各県教組減額。R6年度より教育21 20万円追加。
2. 個人会費収入	95,000	95,000	95,000	0	
3. 賛助会費収入	85,000	102,000	85,000	-17,000	
④ 寄付金収入	0	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	0	
特別寄付金収入	0	0	0	0	
⑤ 事業収入	100,000	140,000	100,000	-40,000	
1. 教育交流・派遣事業	0	0	0	0	今回は参加費徴収なし
2. 教育交流・受入事業	0	0	0	0	
3. 教育交流・支援事業	0	0	0	0	
4. 教育交流・研究助成事業	100,000	140,000	100,000	-40,000	20,000×5 (ホームステイ)
⑥ 雑収入	205	73	205	132	
雑収入	0	0	0	0	
受取利息	205	73	205	132	
事業活動収入合計	5,271,266	4,608,295	5,271,267	662,971	
2. 事業活動支出					
① 事業費支出	8,546,500	8,219,500	5,392,300	327,000	
(1) 教育交流・派遣事業	4,399,000	4,347,000	1,390,276	62,000	
1. 役員報酬	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の3
2. 給料手当	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の3
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	会議会場費 飲物代など
4. 交際費	90,000	30,000	90,250	60,000	事務所来客用お茶等、土産代
5. 旅費交通費	3,500,000	3,500,000	571,120	0	訪中 (打合せ3名)・職員交通費 (3か月)
6. 通信運搬費	45,000	45,000	37,331	0	保守料金・電話料金 (3か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	10,000	25,000	3,630	-15,000	ゼロックスカウント料 (3か月)
9. 賃借料	142,000	135,000	132,990	7,000	総額の約12分の3 R7より家賃+3,000円
10. 委託費	0	0	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	50,000	50,000	0	0	
14. 雑費	20,000	20,000	14,955	0	
(2) 教育交流・受入事業	502,000	517,000	487,390	-15,000	
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の2
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	交流会議 打合せ 会場費など
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	
5. 旅費交通費	7,000	7,000	7,000	0	職員交通費 (2か月)
6. 通信運搬費	30,000	30,000	25,540	0	保守料金・電話料金 (2か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	10,000	25,000	6,190	-15,000	ゼロックスカウント料 (3か月)
9. 賃借料	90,000	90,000	88,660	0	総額の約12分の2
10. 委託費	1,000	1,000	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	交流会議 打合せ 会場費など
12. 研究助成費	0	0	0	0	訪日に関わる諸費用等
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	1,000	1,000	0	0	
(3) 教育交流・支援事業	1,534,500	1,529,500	1,498,294	5,000	
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の2
3. 会議費	1,000	1,000	0	0	打合せ 委員会 参加者会議 会場費など
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
5. 旅費交通費	10,500	10,500	10,500	0	職員交通費 (3か月)
6. 通信運搬費	45,000	45,000	25,504	0	保守料金・電話料金 (3か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	0	0	
8. 印刷製本費	10,000	10,000	3,630	0	ゼロックスカウント料 (3か月)
9. 賃借料	95,000	90,000	88,660	5,000	総額の約12分の2 R7より家賃+3,000円
10. 委託費	1,000	1,000	0	0	
11. 教育支援費	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	宋慶齡基金会との共同プロジェクト
12. 研究助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	10,000	10,000	10,000	0	送金手数料など
(4) 教育交流・研究等助成事業	1,617,000	1,312,000	1,639,246	305,000	
1. 役員報酬	160,000	160,000	160,000	0	総額の12分の2
2. 給料手当	200,000	200,000	200,000	0	総額の12分の2
3. 会議費	50,000	100,000	42,240	-50,000	研究会 打合せ 会場費など
4. 交際費	5,000	5,000	0	0	事務所来客用お茶、土産等
5. 旅費交通費	95,000	95,000	303,700	0	職員交通費 (2か月) ホームステイ、シンポジウム旅費等
6. 通信運搬費	30,000	30,000	22,678	0	保守料金・電話料金 (2か月)
7. 消耗品費	1,000	1,000	1,320	0	名札ホルダー
8. 印刷製本費	10,000	10,000	3,984	0	ゼロックスカウント料 (3か月)

					(単位:円)
科 目	A	B	C	D	
7年度予算案額	8年度予算案額	6年実績見込み	増減 A-B	備 考	
9. 賃借料	95,000	90,000	88,660	5,000	総額の約12分の2 月7より家賃+3,000円
10. 委託費	0	0	0	0	
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研究助成費	900,000	550,000	785,872	350,000	作文コンクール・ホームステイ・シンポジウム(懇親会含む)など
13. 謝金	70,000	70,000	30,000	0	シンポジウムパネラー、講師謝金
14. 雑費	1,000	1,000	792	0	
共通	494,000	514,000	377,094	-20,000	
1. 役員報酬	0	0	0	0	
2. 給料手当	0	0	0	0	
3. 会議費	10,000	10,000	0	0	研究会 打合せ 会場費など
4. 交際費	1,000	1,000	0	0	事務所来客用お茶等
5. 旅費交通費	100,000	100,000	41,325	0	役員国内交通費 委託先訪問時ほか
6. 通信運搬費	100,000	100,000	86,294	0	切手代 賛助会費発送代 封筒代 資料送付等
7. 消耗品費	0	20,000	0	-20,000	
8. 印刷製本費	250,000	250,000	216,700	0	年会報印刷代
9. 賃借料	0	0	0	0	
10. 委託費	33,000	33,000	32,775	0	HP使用料ドメイン使用料(R5年度より値上げ)
11. 教育支援費	0	0	0	0	
12. 研修助成費	0	0	0	0	
13. 謝金	0	0	0	0	
14. 雑費	0	0	0	0	
② 法人費支出	2,446,000	2,261,000	2,240,389	185,000	
1. 役員手当報酬支出	240,000	240,000	240,000	0	総額の12分の3
2. 給料手当支出	300,000	300,000	300,000	0	総額の12分の3
3. 法定福利費支出	5,000	5,000	3,750	0	
4. 会議費支出	70,000	70,000	53,235	0	理事会 評議員会等会場費 打ち合わせなど
5. 交際費支出	50,000	50,000	32,000	0	慶弔費など
6. 旅費交通費支出	600,000	450,000	524,580	150,000	理事会 評議員会旅費など
7. 通信運搬費支出	45,000	45,000	38,127	0	保守料金・電話料金(3か月)
8. 消耗什器備品費支出	10,000	10,000	0	0	パソコン資金など
9. 消耗品費支出	30,000	10,000	15,326	20,000	修繕費を含む(パソコンのハードディスク)
10. 印刷製本費支出	1,000	1,000	0	0	
11. 賃借料支出	230,000	215,000	211,494	15,000	総額の約12分の3 更新料、家財保険料、保証料他
12. 租税公課支出	5,000	5,000	1,700	0	
13. 委託料支出	830,000	830,000	794,200	0	日本パートナーズ会計など
14. 雑支出	30,000	30,000	25,977	0	
事業活動支出合計	10,992,500	10,480,500	7,632,689	512,000	
事業活動収支差額	-5,721,234	-5,872,205	-2,361,422	150,971	
II 投資活動収支の部				0	
1. 投資活動収入				0	
① 基本財産変更差額収入	0	0	0	0	
基本財産変更差額収入				0	
② 特定資産取崩収入	6,300,000	6,400,000	2,700,000	-100,000	
(公1)訪中派遣費用準備資金		400,000	400,000	-400,000	
(公1)訪中派遣費用準備資金	2,000,000	2,000,000		0	
(公1)訪中派遣費用準備資金	1,700,000	2,200,000	500,000	-500,000	
(公2)訪日受入事業準備資金				0	
(公3)教育交流支援費用準備資金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金	800,000	800,000	800,000	0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金	600,000			600,000	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金	200,000			200,000	
(公4)田中一郎記念奨学基金				0	
(共通)教育交流積立金				0	
投資活動収入計	6,300,000	6,400,000	2,700,000	-100,000	
2. 投資活動支出				0	
① 特定資産取得支出	500,000	500,000	4,800,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金				0	
(公1)訪中派遣費用準備資金	500,000	500,000	500,000	0	
(公2)訪日受入事業準備資金				0	
(公1)訪中派遣費用準備資金			2,000,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金			1,700,000	0	
(公1)訪中派遣費用準備資金				0	
(公4)田中一郎記念奨学事業準備資金			600,000	0	
(共通)教育交流積立金				0	
② 固定資産取得支出	0	0	0	0	
什器備品購入支出	0	0	0	0	
③ その他の支出	0	0	0	0	
解約金	0	0	0	0	
投資活動支出計	500,000	500,000	4,800,000	0	
投資活動収支差額	5,800,000	5,900,000	-2,100,000	-100,000	
III 財務活動収支の部				0	
1. 財務活動収入				0	
財務活動収入計				0	
2. 財務活動支出				0	
財務活動支出計				0	
財務活動収支差額			0	0	
IV 予備費支出	0	0	0	0	31年実績:PC購入
当期収支差額	78,766	27,795	-4,461,422	50,971	
前期繰越収支差額	-1,029,849	3,331,970	3,431,573	-4,361,819	
次期繰越収支差額	-951,083	3,359,765	-1,029,849		
V 当期一般正味財産増減額の部				0	
一般正味財産期首残高(見込概数)	63,522,151	65,780,000	65,883,573	-2,257,849	
一般正味財産期末残高(見込概数)	57,800,917	59,907,795	63,522,151	-2,106,878	
VI 当期指定正味財産増減額の部				0	
指定正味財産期首残高				0	
指定正味財産期末残高				0	
VII 正味財産期末残高(見込概数)				0	

(5) 2025 (令和7) 年度役員・評議員・公益事業審査員名簿

公益財団法人日本中国国際教育交流協会 理事・評議員・監査・顧問・公益事業審査委員

< 2026 (令和8) 年3月1日現在 >

評議員(8名)

井上 定彦

三河 真志

黒田 文男

早坂 淳史

野村 隆之

原 和之

別所 勝也

山中小白

監事(2名)

鈴木 伸昭

山門 真

公益事業審査委員(5名)

初岡 昌一郎

樋口 弘夫

田中正志

原 和之(評議員)

赤岡 直人(理事)

理事(7名)

赤池 浩章

赤岡 直人(業務執行理事)

天野 博史

伊藤 功

島崎 直人

中村 武志(代表理事)

前 篤徳男

顧問(2名)

興石 東

生井 榮一

協会の歩み

設 立 1991年1月
1992年財団法人認可
2010年8月5日公益財団法人認定
公益財団法人移行 2010年8月9日
創 立 者 田中 一郎（初代理事長）
理 事 長 生井 榮一（第2代）
代表理事 黒田 文男（第3代 2010年4月～2020年6月）
代表理事 中村 武志（第4代 2020年6月～現在）

教育交流・派遣事業

1992 私立学校教職員訪中団（北京、大連）、第1次教育訪中団（北京、杭州。李鉄映国家教育委員会主任と会見）
1993 第2次教育訪中団（北京、瀋陽、撫順、大連。倪全人代常務副委員長会見）
1994 第3次訪中団（昆明、成都）
1995 第4次教育訪中団（ウルムチ、トルファン）、協会理事訪中団（北京。国家教育委員会、中国教育国際交流協会訪問）
1996 第5次教育訪中団（済南・青島、蘇州）
1997 第6次教育訪中団（日中国交正常化25周年、財団設立5周年記念北京、天津、常州、蘇州。朱国家教育委員会主任と会見）
1998 第7次教育訪中団（北京、ハルビン、長春）
1999 第8次教育訪中団（南京、杭州、上海）
2000 第9次教育訪中団（昆明、大理、麗江）
2001 第10次教育訪中団（西寧、西安）
2002 第11次教育訪中団（日中国交正常化25周年記念。南寧、桂林）
2004 第12次教育訪中団（北京、承德）
2006 第13次教育訪中団（北京、天津）
2007 第1期安東自由大学参加団（韓国・安東市）
2008 第14次教育訪中団（北京、河北省易県）
第2期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2009 第3期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2010 第15次教育訪中団（北京、河北省易県）
2011 第5期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2012 第6期安東自由大学参加団（韓国・安東、大邱、ソウル）
2013 第7期安東自由大学参加団（韓国・安東、ソウル）
2014 第16次教育訪中団（上海・南京）
2015 視察研修訪中団（北京・泰安市東平県）
2016 第1回日中音楽教育交流会（北京・泰安市東平県）
2018 第17次教育訪中団（北京・泰安・青島）
第3回日中音楽教育交流会（泰安市等東平県）
2019 視察研修訪中団（北京）
2024 役員訪中団（北京・保定市阜平県）
2025 視察研修訪中団（北京・保定市阜平県）

教育交流・受入事業

1992 中国教職員訪日代表团（東京、三重、神奈川、愛知、茨城、山梨、千葉、静岡）
1993 寧波市訪日団（東京、茨城、群馬、千葉）、常州市訪日団（兵庫、福井、三重）、寧夏自治区訪日団（愛知、富山、新潟）、中国教育国際交流代表团（東京、神奈川、静岡、神奈川、京都、奈良、兵庫、大阪。赤松文相と会談）
1994 江蘇省小学校長訪日団（神奈川、山梨、静岡）

1995 湖南省訪日団（愛知、静岡、三重）、蘇州市訪日団（千葉、神奈川、山梨）
1996 モンゴル赤峰市職業教育代表团（東京、北海道）常州市訪日団（千葉、山梨、東京）卒業生就職指導訪日団
1997 日中国交正常化25周年、財団設立5周年記念教育交流訪日団（東京、愛知、三重）
1998 蘇州市・昆山市訪日団（東京、福井、千葉）常州市訪日団（東京、山梨、三重、京都、奈良、大阪）
1999 北京市第二実験小学校訪日団（東京、神奈川、京都、大阪）中国優秀教師訪日団（東京、静岡）
2000 雲南教育学会訪日団（東京、山梨、千葉）
2001 中国教育交流訪日団（東京、山梨、奈良、京都、大阪）
2002 中国特殊教育工作者代表团（東京、三重）
2003 北京市崇文区教育関係者訪日団（東京、山梨）
2006 協会設立15周年記念中国教育国際交流訪日団（東京）遼寧省体育訪日団（東京、神奈川、滋賀、大阪）
2008 中国宋慶齡基金会教育代表团（第1次）（東京、静岡、愛知、京都）
2009 中国宋慶齡基金会李寧秘書長、協会を訪問
2011 協会設立20周年記念中国教育国際交流協会訪日団、中国宋慶齡基金会教育代表团（第2次）（東京、神奈川）
2012 中国宋慶齡基金会唐開生副主席、協会を訪問
2013 第3次宋慶齡基金会教育交流代表团（三重、京都）
2017 第4次宋慶齡基金会教育交流代表团（静岡）
第2回日中音楽教育交流会（静岡）
2019 第5次宋慶齡基金会教育交流代表团（山梨）
第4回日中音楽教育交流会（山梨）

教育交流・支援事業

1996 雲南省災害教育復興資金（100万円）を贈る。
1998 長江水害見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じて贈る。松花江水害見舞金（50万円）を黒龍江省教育委員会を通じて贈る。
2006 協会代表、中国宋慶齡基金会、河北省易県を訪問。
2007 生井理事長が中国宋慶齡基金会胡啓立主席と会談。河北省易県小学校へ机椅子600セット及び電子キーボード40台（総額200万円）の教育支援及び音楽教師養成セミナー支援。協定書締結。
2008 四川大地震に対し、見舞金（100万円）を中国教育国際交流協会を通じ四川教育国際交流協会へ。同じく見舞金（50万円）を宋慶齡基金会を通じて贈る。また、ミャンマーサイクロン被害見舞金（50万円）をビルマ日本事務所を通じて送る。日本教育公務員共済会より易県教育支援に関し、本部奨励金（100万円）を受ける。
2009 第1回音楽教師養成セミナー参加、（北京、河北省易県）
2010 第2回音楽教師養成セミナー支援・参加（70万円）
2011 第3回音楽教師養成セミナー支援・参加（100万円）
東日本大震災支援「こども音楽再生基金」へ寄附（100万円）
2012 協会代表（黒田代表理事）以下4名が中国宋慶齡基金会（李寧秘書長）、中国教育国際交流協会（林佐平副秘書長）中国教育科学文化衛生体育工会（万民東主席）を訪問。第4回音楽教師養成セミナー支援（250万円）
2013 第5回音楽教師養成セミナー支援（200万円）（黒田代表理事、会員代表ら8名参加）
2014 協会代表（黒田理事長）以下3名が中国宋慶齡基金会

（井嶋泉副主席）、中国教科文衛體工会全國委員會（白立文國際代表）を訪問。
第5回音楽教師養成セミナー支援（100万円）送金
2015 協会代表（黒田理事長）以下3名が中国宋慶齡基金会（井嶋泉副主席）を訪問。
山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2016 協会代表（黒田理事長）以下6名が中国宋慶齡基金会（井嶋泉副主席）を訪問。
山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2017 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2018 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2019 山東省泰安市東平県音楽教育支援（100万円）
2021 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）
2022 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）
2023 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）
2024 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）
2025 河北省保定市阜平県音楽教育支援（100万円）

教育交流・研究等助成事業

1995 中国人日本留學生に奨学奨励金制度を設ける
1997 協会設立5周年記念教育交流集会・レセプション（東京）
1999 韓国中学校教育協議会名誉会長嚴圭白博士と田中会長・理事長会見
2001 中国教育国際交流協会20周年式典で、田中会長・理事長が顧問に就任。協会設立10周年記念教育交流集会（文部省後援、東京）
2002 日中国交正常化30周年記念教育交流集会・レセプション（文科省・中国大使館教育処後援、東京）
2006 協会設立15周年記念教育交流集会・レセプション（文部省・中国大使館教育処後援、東京）
2007 第3回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
2008 第4回「中国人の日本語作文コンクール」を後援、教育賞を提供。
2009 第5回「中国人の日本語作文コンクール」後援。
2010 第6回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
2011 第7回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンスト協賛。
2012 第1回教育交流ホームステイ（in山梨）実施。
第8回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。フジ国際語学院スピーチコンテンスト協賛。
2013 第2回教育交流ホームステイ（in山梨）
第9回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
2014 第3回教育交流ホームステイ（in山梨）
第10回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
2015 第4回教育交流ホームステイ（in山梨）
第11回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
第1回日中教育文化交流シンポジウム開催。
2016 第5回教育交流ホームステイ（in千葉）
第12回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
第2回日中教育文化交流シンポジウム開催。
2017 第6回教育交流ホームステイ（in千葉）
第13回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
第3回日中教育文化交流シンポジウム開催。
2018 第7回教育交流ホームステイ（in山梨）
第14回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
第4回日中教育文化交流シンポジウム開催。
2019 第8回教育交流ホームステイ（in 神奈川）。

第15回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
2020 第16回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
2021 第17回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
2022 第18回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
第5回日中教育文化交流シンポジウム開催。
2023 第19回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
第6回日中教育文化交流シンポジウム開催。
2024 第9回教育交流ホームステイ（in山梨）
第1回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール実施。
第20回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
第7回日中教育文化交流シンポジウム開催
2025 第10回教育交流ホームステイ（in山梨）。
第2回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール実施。
第21回「中国人の日本語作文コンクール」を後援。
第8回日中教育文化交流シンポジウム開催
(2026年3月現在)

公益財団法人日本中国国際教育交流協会とは

◆日本中国国際教育交流協会は
1991に創立。東アジアの豊かな未来を実現するために、日本と中国を柱として、教育交流事業を進めています。子どもや教育の持つ「共生力」に限りない期待を寄せています。

◆公益財団法人とは

広く公益に資する事業を進めている法人として2010年内閣府から認定を受けました。公益法人は、寄付金に税はかからないので、支援がしやすいのが特徴です。

◆教育交流は4つの分野で

- 派遣
教育に関心のある人たちによって構成された協会が派遣する団で、学校見学、授業の交流、子どもや教職員との交流を行い、未来の東アジアを地球規模で考えます。
- 受入
諸外国からの教育関係の訪日団を受け入れ、学校訪問等を行い、教職員や子どもたちとの交流を深めています。訪日団の希望に沿って、教育現場の協力を得た研修への参加ができます。
- 支援
教育困難地域の学校に、机や椅子などの学校備品のほか、電子キーボードなどの教育機器を送っています。また送った機器を使って授業が進められるための研修を支援しています。支援を受け入れる団体は、行政または信頼のおける団体です。
- 研究等助成
田中一郎奨学基金を設立し、東アジアを中心に国際的な教育交流を担う人材を育成します。また、「日本語作文コンクール」「教育交流ホームステイ」などを通して、海外や日本で日本語を勉強している若者の学習を助成しています。

◆東アジアでのこの素敵な教育交流への参加をお待ちします。

個人会員	年会費	一口	5,000円
団体会員	年会費	一口	10,000円
賛助会員	年会費	一口	3,000円
寄 付 金	随時		

会員、寄附をされた団体・個人には、協会の年会報、「共生力」（随時発行の会報）、海外派遣への先行連絡、イベントのご案内など差し上げます。

【編集後記】

2025年度になっても、相変わらず世界各地で戦争・内乱・圧政・災害・飢餓・環境破壊等が起り、極端な人権侵害が続いています。そうした中、本来、「人々の平和で安心な生活」を希求すべき政治は混乱が続き、格差と分断を助長し、我が国を含め世界的に不安定さを増しています。まずは人権の観点に立って、今後の展開について注視していかなくてはならないと考えています。不安定な世界情勢の中にあって、日中の教育交流を基軸とする当協会の事業については、大きな意義を持つ取り組みとして、関係方面から評価されています。

今年度は、おおむね予定していた活動が実施できました。中国宋慶齡基金会との「新たな5か年計画プロジェクト（河北省保定市阜平县との教育交流）」につきましては、5年目を迎えました。視察研修訪中団を組織して北京・阜平县を訪問し、宋慶齡基金会・阜平县教育関係者と話し合いを持つことができました。今後の、教育交流派遣・受入・支援事業の今後の進め方について、具体的な打ち合わせを行うことができました。また、教育交流研究等助成事業については、「第10回ホームステイ」を実施することができました。昨年度から実施した「田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール」についても、第2回としてさらに充実して実施することができました。

「世界の平和、人類の共生のために、しっかりとした民間レベルでの人と人とのつながりをつくる」、そんな東アジアを中心とする教育交流事業の推進に、これからも努力を重ねて参りたいと考えています。ご理解・ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

■公益財団法人日本中国国際教育交流協会【会報第32号】

2026年（令和8年）3月25日発行

発行人…中村武志 表紙題字…田中一郎（創立者） 印刷…（株）アートプリント

〒400-0031 山梨県甲府市丸の内2-32-16 甲府丸の内マンション302

Tel.055-269-6533 Fax.055-269-6534

HP：<http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>
